

《テーマ》 主体的に学び，心身ともにたくましい児童生徒の育成
 ～ 円滑な接続のための小中連携の在り方 ～

1 分科会(グループ討議1)【学力向上・生徒指導・特別支援教育】

| | 共通実践事項 |
|--------|---|
| 学力向上 | <ul style="list-style-type: none"> 「個に応じた指導」に当たっては、「指導の個別化」と「学習の個性化」という二つの側面を踏まえるとともに，ICT の活用も含め，児童生徒が主体的に学習を進められるよう，それぞれの児童生徒が自分にふさわしい学習方法を模索するような態度を育てる。 |
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> 提出物の状況があまりよくない。 → 保護者に直接，まなびポケットまたは安心メールで連絡を行うのが有効となるのでは…。 |
| 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> 学年の実態に合わせて，自立活動の充実を図る。 |

2 分科会(グループ討議2)

(1) 総合的な学習の時間

| | 全体計画・年間指導計画の特色 | 成果・課題 |
|-------|--|---|
| 桜島中学校 | <p>※ 別添資料を配布の上、桜島タイムについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 「個性あふれる学校づくり推進事業」で椿油のラベル作りを指導してもらうために地域のイラストレーターの方に指導をしていただいている(地域人材の活用)。 | <ul style="list-style-type: none"> 8月1日の出校日に桜島タイムに関するアンケートを取り、その結果を成果として発表する。 △ 課題としては、キャリアパスポートの活用について、小学校から個人ファイルを作り、継続して記録を残してもらえるようお願いする。(桜峰小のファイルと桜島中のポートフォリオを紹介する。) |
| 桜洲小学校 | <p><3年生></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校周辺の探検 学校周辺の防災地図の作成 <p><4年生></p> <ul style="list-style-type: none"> 桜島大根について調べ、実際に育てる。 半成人式 <p><5年生></p> <ul style="list-style-type: none"> 桜島の踊りや行事について調べる。 福祉教育 桜島の歴史について調べる。 <p><6年生></p> <ul style="list-style-type: none"> 桜島の観光業について調べる。 姉妹都市について調べる。 未来の私 <p><各学年></p> <ul style="list-style-type: none"> プログラミング教育 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が、自ら立てた課題を解決しようとする様々な方法で情報を整理し、まとめ、伝える力を身に付けることができている。 ○ 桜島大根は地域の方と協力して栽培し、収穫まで行うことができている。 ○ 行事と併せて「小池島廻り踊り」を踊ったり、「火の島太鼓」を学んだりすることができている。 △ 情報活用能力は十分に高まっているが、情報モラルを守る意識が低い。 △ 複式になったり、単学級になったりとクラスが変化するので、その年度に合った内容を編成していかなければならない。 |
| 桜峰小学校 | <ul style="list-style-type: none"> 本校の学校目標「自律する児童の育成」に基づいて、地域の実態、児童の実態を踏まえ、地域の人、もの、ことを生かした学習活動を設定している。 「桜島大根プロジェクト」 (神南小学校との交流) 海洋教育パイオニアスクールプログラム 小大連携(鹿児島国際大学) | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分で課題を見つけ、課題解決ができるようになってきている。 |

(上記以外で話し合った内容/出た意見)

- キャリアパスポート(データで記録可)の引継ぎを確実にしましょう。

(2) 特別の教科道徳

| | 全体計画・年間指導計画の特色 | 成果・課題 |
|--|--|---|
| 桜島中学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>担任以外の学年教諭も道徳の授業を実施。</u> ・ 学年で共通使用できるワークシート使用とストック | <ul style="list-style-type: none"> ○ 負担軽減。生徒の様子を見ることができる。教科指導でも役立った。 △ <u>担任が担当しなかった単元の評価把握が難しい。</u> ※ 小学校に聞いてみたいこと <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価は、年間何回しているか。 ・ 通知表における評価の分量。 ○ 誰でも、いつでも使うことができる。 △ 学年の共通理解はできていたが、各担当間での連携ができなかった。 |
| <p>※※ 小中共通して、1時間の中で自己の変容が分かるワークシートを作成する。</p> | | |
| 桜洲小学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>学校重点項目に「生命の尊さ」「善悪の判断、自立、自由と責任」「希望と勇気、自律、自由と責任」を設定し、全学年年間3回授業を行なっている。</u> ・ 学年部重点項目を各学年部1つずつ設定し、年間2回の授業を行なっている <ul style="list-style-type: none"> ・ 低学年部…親切、思いやり ・ 中学年部…節度、節制 ・ 高学年部…正直、誠実 ・ 日曜参観に、全学年道徳の授業参観を行い、充実を図っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 親切・思いやりについての授業をする中で、親切にした時やされた時の気持ちについて考えることができた。 △ 自分たちの行動に結びつけることが課題である。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 重点項目は、現在の副読本だけでなく、以前使用していた資料等も使用している。 |
| 桜峰小学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校の学校教育目標「自律する児童の育成」に基づいて、各学年の重点目標を設定し、年間の計画を立てている。 ・ 郷土の先人、たいせつないのち等を活用できるように年間計画に位置付けて指導に生かせるようにしている。 ・ 教科横断的に情操教育を行い、道徳の学びと関連させている。 ・ 国際大学との交流など多様な考え方に触れる機会を作っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 来校する様々な方々との関りは、道徳教育を行う上で、よりよい環境である。少人数での学習になるので、多様な人や考え方に触れる機会を今後も大切にしていきたい。 |

(上記以外で話し合った内容／出た意見)

- ・ 小学校では、担任しか授業を行っていないが、乗り入れ授業などで担任以外の先生との授業もいいのではないかな。
- ・ 授業では、ワークシートを使用することもよいが、書くことだけに時間が費やされるので、中心質問と振り返りぐらいでもいいのではないかな。また、ロイロノートで自分の意見を退出したり、思考ツールの活用や熊本市教委の「心の数直線」なども内容によって活用することもよい。
- ・ 評価の仕方が難しいが、単元ごとの評価ではなく、子どもたちが多角的・多様な考え方に触れ、変容した様子を実践することが大切である。
- ・ 1年生の道徳授業について全員で考えた。いろんな見方や考え方があるので、教師が内容をよく理解し、道徳的価値をしっかりとって授業をすることが大切である。

(3) 防災教育

| | 全体計画・年間指導計画の特色 | 成果・課題 |
|-------|---|---|
| 桜島中学校 | <p><努力目標> 桜島爆発など災害に対して安全かつ迅速に対応できる実践的な能力と態度を身に付けさせる。</p> <p><活動計画> 4月 地震火災避難訓練（行） 8月 防災教育校内研修（研修） 11月 桜島火山爆発総合避難訓練（行） 1月 火災避難訓練（行）</p> <p><特色> ・ 防災ノートの活用 ・ 学校防災訓練の研修</p> | <p>○ 避難訓練を年2回実施し、生徒の避難の動作は良く、新職員を含めての避難の共通理解や具体的な役割や動きの研修が進んでいる。</p> <p>○ 防災ノートの活用ができています。</p> <p>△ 引渡訓練が実施できていない。また、職員共通の認識ができていない。</p> <p>△ 職員が桜島火山爆発避難についての具体的、実践的イメージがつかめず、生徒・保護者への啓発が進まない。</p> |
| 桜洲小学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 年に4回避難訓練を行っている。 4月・・・地震・津波避難訓練 6月・・・児童引き渡し訓練 10月・・・火災避難訓練 11月・・・総合避難訓練 ・ その他、集団下校も年3回計画されている。 | <p>○ 避難訓練を毎年することで、児童が避難の仕方を理解し、自分たちで休み時間でも行動できると思う。</p> <p>△ 引き渡し訓練の時に、名簿に記載が無い方が迎えに来ることがある。また、駐車場を指定しているが、学校近くの路肩への駐車が問題になったことがある。</p> <p>△ 集団下校訓練の際、毎回、保護者が迎えに来て、徒歩で下校しない家庭がある。</p> |
| 桜峰小学校 | <p>○ 本校の学校教育目標「自律する児童の育成」に基づいて、各学年の重点目標を設定し、年間の計画を立てている。</p> <p>○ 総合的な学習の時間と連携し、砂防センターやビジターセンター等の見学を通して、火山噴火や土砂崩れの防災について理解を図っている。</p> | <p>○ 普段から、大雨や噴火が起こった時に気を付けること等を児童が理解し、行動している様子がみられる。擬似体験をしたり、避難訓練を繰り返したりすることで、より自分事として捉えることができています。</p> |

(上記以外で話し合った内容/出た意見)

- ・ 引き渡し訓練について
 - 〈現状〉実施できている学校と実施できていない学校がある。
 - 〈効果〉地域によって、教室を分けているため、迷わずに迎えに行くことができる。場所を確認しており、その教室を目指してくるので、保護者の動きがスムーズ。保護者にとっても安心材料となる。
 - ➡ 保護者も経験しておかないと動きが分からない。
実際に引き渡しを行う場合、タイミングは一緒なので、小中合同で実施したい。(保護者の送り迎えも考えると合同がよい。)

令和6年度は、桜洲小・桜峰小・桜島中合同で引き渡し訓練を行う。

※ 毎年、引き渡し訓練を実施している桜洲小が、資料をシースマイルにあげてくださる。(3校で共有)

